

平成21年度「これからの森林づくりに関する意見交換会」開催結果(概要)について

1. 目的

琵琶湖森林づくり基本計画が、施行後5年目を迎え、中期的目標である戦略プロジェクトの見直しをする必要があり、県民の意見を反映させていくことを目的に、県内の各森林整備事務所管内で意見交換会を実施。

2. 開催結果

開催箇所：県下6カ所 参加人数：161名 アンケート回答者：127名

各回定員30名、参加者へアンケート調査実施

- 第1回 湖北地域：H21.7.18(土)湖北合同庁舎第(1)会議室
 - ・参加人数：33名(アンケート回答者：25名)
- 第2回 甲賀地域：H21.7.18(土)甲賀合同庁舎(4階会議室)
 - ・参加人数：36名(アンケート回答：30名)
- 第3回 中部地域：H21.7.26(日)近江八幡市勤労者福祉センター(2階研修室)
 - ・参加人数：20名(アンケート回答：14名)
- 第4回 西部・南部地域 H21.8.1(土)大津市滋賀会館
 - ・参加人数：28名(アンケート回答：16名)
- 第5回 湖北地域：H21.12.17(木)滋賀県立文化産業交流会館(第2会議室)
 - ・参加人数：20名(アンケート回答者：19名)
- 第6回 湖南地域：H21.12.19(土)草津市立草津アミカホール(研修室)
 - ・参加人数：24名(アンケート回答：23名)

3. 意見交換会での主な内容

森づくりを進めるためには森を守り育てていく人がしっかり仕事ができることが重要。
 人材の育成にもっと力を入れるべきである。
 地球温暖化防止対策として、森林づくりを通じてより一層の貢献していくべき。
 森林の公益的機能を求められるのであれば、森林整備をされている森林所有者の負担をもっと減らすべき。
 森林の整備を図るためには、境界の確認、作業路整備などの支援や対策が必要。
 獣害対策の強化、特にニホンジカの頭数を減らす取り組みを。
 ボランティア活動が長期的な関わりができるようなプログラム(仕組み)づくりが必要。
 森林資源があらゆる(生活)面において利用されていくことが必要。
 県内で県産材の流通のシステムのようなものがあれば、良い材を地域で使ってもらえると思う。
 県内に県産材を集めるヤードをつくるべき。
 森林資源循環のためのトータルな仕組み、林業再生のための県民を巻き込んだ施策が必要ではないか。
 県産材の需要の喚起、需要の創出が必要で、エンドユーザーのニーズや状況を把握すべき。
 森林環境学習「やまのこ」事業は、極力1泊2日で実施すべき。
 公的な管理をされている森林であっても、琵琶湖森林づくり事業が対象となるようお願いしたい。
 等々

4. アンケート調査結果概要

別紙参照